

フォーラム

がんと生きる

～こころとからだ 私らしく～

2人に1人がかかるといわれる“がん”。

医学の進歩で治療の効果があがる一方で、抗がん剤などの副作用に悩まされ、暮らしや治療そのものに支障をきたす人も少なくありません。

今そこに、新たな医療の手立てがでてきました。治療の副作用を軽減する“支持療法”や、心や体の痛みに寄り添う“緩和ケア”の効果が期待されています。

たとえ、がんと診断されても自分らしく生きられる時代。

がんとともに生きる当事者や医療者らが最新の医療・ケアについて語り合います。

参加者募集中

東京都社会保険労務士会による相談コーナーがあります。
お気軽にお立ち寄りください。

日時：2019年 **1月19日** (土)

開場：午後0時30分 開演：午後1時 終演：午後3時30分 (予定)

※途中休憩あり

会場：**文京シビックホール 大ホール**

住所：東京都文京区春日1-16-21 文京シビックセンター1階

定員：**700人** **入場無料** 事前の申し込みが必要です。
申し込み方法は裏面をご覧ください。

交通

- 東京メトロ丸ノ内線・南北線『後楽園駅』5出入口直結
 - 都営地下鉄三田線・大江戸線『春日駅』文京シビックセンター連絡口直結
 - JR中央・総武線『水道橋駅』東口から徒歩約13分
- ※公共交通機関をご利用ください。

題字/延 哲也 イラスト/マルシェル



主催 ● **NHK** 厚生文化事業団 **NHK** エンタープライズ 読売新聞社

後援 ● **NHK** 厚生労働省 東京都 文京区 社会福祉法人東京都社会福祉協議会 社会福祉法人文京区社会福祉協議会 公益社団法人東京都医師会 公益社団法人東京都歯科医師会
公益社団法人東京都薬剤師会 公益社団法人東京都看護協会

協力 東京都社会保険労務士会 協賛 **ツムラ**

出演者プロフィール

基調講演

きたしま まさき
北島 政樹

国際医療福祉大学 副理事長・名誉学長
慶應義塾大学 名誉教授

慶應義塾大学医学部卒業。Harvard Medical School, Massachusetts General Hospitalに2年間留学。元慶應義塾大学病院病院長、同大医学部長。第100回日本外科学会会長、第42回万国外科学会会長、日本癌治療学会理事長、日本コンピュータ外科学会理事長、日本内視鏡外科学会理事長、国際消化器外科学会会長のほか、世界最高峰の医学雑誌「New England Journal of Medicine」の編集委員を務めるなど国内外で活躍。ハンガリー・センメルweis大学名誉医学博士、ポーランド・ヴロツワフ医科大学名誉医学博士。これからのがん医療は常に患者さんの視点でみることが重要であり、低侵襲・個別化医療とチーム医療がキーワードになると考えている。

パネルディスカッション

田邊 稔 たなべみのる

東京医科歯科大学大学院 肝胆膵外科学分野 教授

1985年慶應義塾大学医学部卒業。米国ピッツバーグ大学およびマイアミ大学移植外科に留学。慶應義塾大学准教授を経て、2013年より東京医科歯科大学肝胆膵外科学分野教授、現在に至る。東京医科歯科大学医学部附属病院副病院長、外科系診療部門長、腫瘍外科領域長を兼任。腹腔鏡下手術や新規抗がん剤をはじめ、さまざまな先進的医療を駆使して、肝胆膵領域の難治がんに挑み続けている。日本消化器外科学会、日本肝胆膵外科学会、肝臓内視鏡外科研究会の理事を務めるオピニオンリーダー。

延 浩子 のぶひろこ

小児科医・家族

久留米大学医学部卒業。長年医師として小児がんの治療をはじめ、治療後の暮らしの支援にも力を注ぐ。現在は佐賀県医療センター好生館に勤務。小児がん経験者の一人で、大腸がんを2次がんとして発症した延哲也さんと2014年に結婚。闘病中を公私ともに支えるとともに、2年後に自宅を夫を看取った。その日々は24時間テレビ「愛は地球を救う」でも取り上げられた。著書に『小児がんの子どものトータル・ケアと学校教育』（共著、ナカニシヤ出版、2000年）など。

横山 光恒 よこやまみつのぶ

がん経験者、公益財団法人日本対がん協会がんサバイバー・クラブ マネージャー

岐阜県出身。3人家族。2005年8月に働き盛りの36歳で右腋窩にクーイング肉腫を告知される。右腕の切断を提案されるも抗がん剤、放射線治療により腫瘍が縮小し温存手術を選択。退院後に仕事復帰するも配置転換・退職勧奨を受け退職する。家族を養うために自営業をしながら、岐阜でリレー・フォー・ライフの立ち上げやがんピアサポーターの育成活動を行う。2017年4月より日本対がん協会がんサバイバー・クラブのマネージャーとして活動する。

白水 千穂 しろうすちほ

がん当事者、NPO法人キャンサーリボンズ サバイバーボードメンバー

福岡県生まれ。東京で外資系メーカーに勤務していた2015年秋、激しい腹痛に襲われ緊急入院。腸閉塞の状態検査の結果、ステージ4の“虫垂がん”と診断される。手術でがんは摘出したものの、術後に開始した抗がん剤治療では“治療”が目的ではなく、“延命”のためと告げられた。同時期には職を失い、先行きに強い不安をおぼえ、一時は抑うつ状態に陥った。現在は通院先の看護師やソーシャルワーカーからの支援を受け、治療と仕事の両立を目指している。

賢見 卓也 けんみたくや

特定非営利活動法人がんと暮らしを考える会 理事長・看護師

1999年兵庫県立看護大学看護学部卒業後、都内大学病院で勤務。2006年日本大学大学院にて、がん医療と民間保険の有効活用を研究しMBA取得。2007年より訪問看護パリアンにて在宅ホスピスに9年間携わる。2011年がん患者の経済的な問題をテーマにFP・社労士らと共に研究活動を開始。2013年『がんと暮らしを考える会』としてNPO法人化。がん患者のお金に関する制度を検索できるwebサイト『がん制度ドック』をリリース。がん拠点病院でお金と仕事の個別相談会を実施。

丸山 慧 まるやまさとし

厚生労働省健康局がん・疾病対策課 がん対策推進官

東京大学医学部卒業。国立国際医療研究センターにて初期臨床研修。2009年東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻修了し、厚生労働省に入省。以降診療報酬政策、原爆被爆者政策、自衛隊の保健政策（防衛省出向）などに従事した後、米国スタンフォード大学に留学。2018年9月よりがん・疾病対策に従事。

コーディネーター

町永 俊雄

まちなが としお

福祉ジャーナリスト

1971年NHK入局。「おはようジャーナル」キャスターとして教育、健康、福祉といった生活に関わる情報番組を担当。2004年からは「福祉ネットワーク」キャスターとして、うつ、認知症、自殺対策などの現代の福祉をテーマに、共生社会の在り方をめぐり各地でシンポジウムを開催。現在は、フリーの福祉ジャーナリストとして活動を続けている。

参加申し込みについて

入場は無料ですが、事前の申し込みが必要です。

参加ご希望の方は、はがき(単信)、FAX、メール(ホームページの申し込みフォームから)のいずれかに

1. 名前(必ず個人名を記入) 2. 郵便番号・住所 3. 電話番号 4. 参加人数

5. 一緒に参加される方の名前(複数名の参加を希望される場合) を書いて、お申し込みください。

お申し込み先

〒150-0041 東京都渋谷区神南1-4-1 第七共同ビル

NHK厚生文化事業団「フォーラムがんと生きる東京」係

FAX 03-3476-5956 ※FAX番号はお間違いのないようお願いいたします。

ホームページ <https://www.npwo.or.jp/>

**定員になり次第
締め切ります**

※当日の入場は『入場整理券(1枚で1人入場可)』が必要です。2019年1月10日以降順次、希望人数分を封書でお送りいたします。
※郵便番号、住所は正確にご記入ください。誤り及び記入漏れがある場合、入場整理券が届かない場合があるので、ご注意ください。
※個人情報適切に管理し、本フォーラムの連絡のみに使用いたします。

下記欄にご記入の上、そのままFAXにてお送りいただけます。

フォーラムがんと生きる東京	ふりがな	参加人数	< 一緒に参加される方の名前 >
	名前 ※必ず個人名をご記入ください。		
	住所 〒		
	電話番号		

お問い合わせ **NHK厚生文化事業団** TEL 03-5728-6633 (平日 午前10時~午後6時)

※2018年12月29日(土)から2019年1月3日(木)まで年末年始休業とさせていただきます。